
私（オレ）と本性と裏表

碌手拿志

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私オレと本性と裏表

【Nコード】

N0867Z

【作者名】

碌手拿志

【あらすじ】

文月学園一のバカ・・・吉井明久。この小説は彼に本性がばれなように日々奮闘する少女の物語である。

主人公設定（前書き）

初投稿です。よろしくお願ひします。

主人公設定

名前：久美沢美紅くみさわ みく

性別：女

性格：明久以外にはかなり酷い

身長：172cm

体重：殺されたいのか・・・？

好きなもの：明久 猫 料理をすること

嫌いなもの：明久を馬鹿にしたり暴力をふるったりする人

容姿：胸はEで背も高いのでスタイルがかなりいい

艶のある黒髪を腰あたりまでのばしている

目付きはかなり悪い（明久の前ではのほほんとした目をして
いる）

備考：最初はAクラスを目指していたが明久の行動をみてFクラス
になれるよう点数を調整した。

召喚獣設定

明久と同じく黒い学ランを羽織っており胸にサラシをまいている。
武器は点数に応じて変わることもあるが基本素手で戦う。

腕輪

衝撃波

召喚獣の拳から衝撃波を発生させる。点数は1点だけ消費しても
使えるが消費する点数は多ければ多いほど威力はあがる。

変更点：明久はFFF団には入らない

原作より若干天然

主人公設定（後書き）

こんな感じで書いていきたいと思います。

プロローグ（前書き）

なんとか投稿できました。

プロローグ

「あ〜〜かったりい・・・」

まったく、何だよこの問題？これが振り分け試験か？簡単すぎるだろ。ナメてんのか？こんなもん、ひまつぶしにもなりやしねえ。あーあ。期待はずれもいいとこだ。いつそのこと潰れてしまえば・・・って、いかんいかん。こんなガサツの態度だから駄目なんだ。中学の時決めただろう、オレ！オレはこの学校で・・・

彼氏をつくる！

そのためにも何が何でも好みの男を見つけて、女らしくなるんだ！中学時代は喧嘩に明け暮れてたらしいのまにかまわりの奴等がイチヤイチヤしてて、オレが近づくだけで悲鳴をあげて逃げやがる。こんなふうに・・・

「・・・ってことがあつてさー」

「それ本当〜なんかウソっぽ〜い」

「いや本当だつて！」

「うそだ〜」

「だから本「嘘つけこの野郎！」えー？」

「なあ、ちよつと聞「ねえ！何で頑なにオレの言ってること否定するの!？」たいことが・・・」

「信じられるわけないでしょ！なに!？」人が空からパンツかぶつて落ちてきたと思つたら俺にンツ渡して飛び去っていった」なんていわれて信じられる分けないでしょう!？」

「いや、だから聞「浮気したならしたつて言いなさいよ!?!」・・・」

「う、浮気なんかしてないよ!！」

「だったらなんであんたが女物のパンツ持ってるのよー!!」

「いや、だからこれはその人が・・・」

「信じられるかー!!」

「いや、だから本当に」・・・おい」・・・へ?」

「さつきかりシカトしやがって・・・」

「く、久美沢美紅くみさわ みく!!」

「お前ら・・・覚悟はでき『い、いやー!!!!?』って、おい
!逃げるなー!!」

こんな風に。ただ、ちよつと聞きたいことがあつただけなのに・・・
っ!か、隣のやつ大丈夫なのか?かなり具合悪そう何だが・・・。

ドサツ!!

て、言ってるそばから倒れやがった。たしか途中退席は無得点扱い
じゃなかったっけ?ま、他人のことを気にかける奴なんているわけ
・・・

「姫路さん!!」

・・・えっ?アイツなにしてた?下手したら自分が無得点扱いに
なるかもしれないのに・・・

ドクン!!

!!な、なんだこれ!?か、体が熱い!?まさか、これが恋・・・
?い、いやたつたこれだけのことで惚れるわけ・・・

「具合が悪くなつて退席するだけでそれはひどいじゃないですか!」

ドクン!!

ち、違う!!そんなことあるわけない!!

「僕は彼女を保健室に連れていってきます!無得点扱いするなら自由にどうぞ!」

ドクン!!

だから!!これは違う!!

「姫路さん!!頑張って!!すぐに連れていくから!!」

ざわざわ

ざわざわ

教室が騒がしくなったきがするがなにも聞こえない。先生がなにか知っているがなにも聞こえない。この時点でオレに・・・いや、私に出来ることはただひとつ。

名前も知らない愛しのあの人と同じクラスになるために、名前を全部消すことだけだった。

バカテスト 第一問（前書き）

バカテストです。時々オリジナルの問題をのせたいと思います。

バカテスト 第一問

問 以下の問いに答えなさい。

『調理の為に火にかける鍋を製作する際、重量が軽いのでマグネシウムを材料に選んだのだが、調理を始めると問題が発生した。このときの問題点とマグネシウムの代わりに用いるべき金属合金の例を一つ挙げなさい』

姫路瑞希の答え

『問題点・・・マグネシウムは炎にかけると激しく酸素と反応する為危険であるという点。』

『合金の例・・・ジユラルミン』

教師のコメント

正解です。合金なので『鉄』では駄目という引っかけ問題なのですが、姫路さんは引っかけかりませんでしたね。

土屋康太の答え

『問題点・・・ガス代を払っていなかったこと』

教師のコメント

そこは問題じゃありません。

久美沢美紅の答え

『問題点・・・調理をするよりも出前を頼んだほうが早いというところに気づいてしまった点』

教師のコメント

問題そのものを否定しています。

吉井明久の答え

『合金の例・・・未来合金（すごく強い）』

教師のコメント

すごく強いと言われても。

久美沢美紅のコメント

テーマ・・・ナメたこと言ってるじゃねえよ！ぶち殺すぞ！

教師のコメント

理不尽な気がしてなりません。

オレとFクラスと愛しいあの人

オレがこの文月学園にきて二度目の春が訪れた。ほんの数カ月前には枯れ木だらけで頭にお悩みをかかえる中高年の先生方は通勤するたび不安になったであろう桜の木も今は満開の花弁をつけ、中高年の先生方へ懸命にエールを送っている。・・・が、そんなことはどうでもいい。今一番大切なのは・・・

「早く教室にいつてあの人の名前を聞き出さねば！」
これである。

実際中高年が禿げようが、不安になろうがどうでもいい。さつさと禿げる。この桜吹雪もかなりウザい。お前も禿げる。つーか散れ。振り分け試験で途中退席したあの人はおそらくFクラスだろうとテストの名前をすべて消したのはいいものの、あの後あの人にはあえず、名前を聞けなかった。だから今日は名前を聞くために早めに来てきた。

「久美沢か、なんだ今日は随分早いじゃないか」

「ふん、オレが早くきちゃ悪いのかよ」

この浅黒い肌をした短髪のいかにもスポーツマン然とした男は生活指導の鬼、西村教諭。生徒の間では趣味のトライアスロンや真冬にも半袖でいることから『鉄人』と、呼ばれている。

「別に悪くはないが、なんだあのテストは。全問正解で名前だけ書かないとはどういうつもりだ？」

「うるせー、こっちにも事情つてもんがあるんだよ」

「名前を書いていけばAクラスにいけたんだがな」

「だから!!!こっちにも事情つてもんがあるんだよ!!!さつさとよこせ!!!」

「全く・・・ほら受けとれ」

「さつさとよこせつーの」

「お前という奴は、その言葉使いはどうか」「じゃ、オレ急いでるから」「おい！まだ話は・・・」

鉄人がなにかいつているがさつさと教室に向かう。すると、何をとち狂ったのか普通の教室よりも明らかにでかいアホみたいな教室が見えてきた。

「これがAクラスか。オレには会わないな」

なにより、Aクラスの連中が気に入らない。頭がいいってだけで自分たちより下の連中を見下してるのが気に入らない。

「FクラスでAクラスを倒すのも面白いかもな」

そういつてオレはAクラスをあとにした。

「さつさといつてあの人の名前を聞かないとな」

でない、早くきた意味がない。

前言撤回。今ならAクラスの連中と仲良しこよしで和気あいあいと和やかにお話しができる気がする。このゴミの掃き溜めのようなクラスに入るくらいなら。しかも・・・

「だ、誰もいねえ!？」

オレのバカ!!いくら早く来たつてあの人がいなけりや意味ないじゃないか!!

「・・・は」

仕方ない。あの人があるまで校門で待つてるとするか。まったくこんなにオレをやキモキさせるなんて・・・見つけたら思いっきり甘えてやるぜ!!

「全然来ねえ!!!」

どうして、どうしてこないんだ!!!・・・はっ!ま、まさかオレ

に会いたくないからこないのか！？そ、そんな・・・

「・・・」

「・・・いやそんなわけねえ！！あんなに人の為に頑張れる人が！優しくて可愛いオレの婚約者（未定）が！！そんなことするわけねえ！！きつとオレが目をちよつとはなしたすきに教室に行つたんだ！！それしかない！！」

「おい！久美沢！さつさと教室にむかえ！なんで早く来たんだお前！！」

「んなこと分かつとるわ！この筋肉だるま！！」

「き、貴様、教師にむか「ウオオオオ！！待ってるダーリン！！今いくぜ！！」おい！こら、待たんか！！」

誰が待つか！

気がつくともう遅刻ギリギリの時間だった。そんな時間になつてもオレはまだFクラスの前にいた。なぜなら・・・

「ど、どんな感じで入ればいいんだ？」

いきなりこの口調で入れば間違いなくダーリン（仮）に嫌われる。それだけはどうしても避けたい。でもいままですつとこの口調だったからどんな口調にすればいいか分からない。そして、考えに考えた結果・・・

「こ、こんな感じで良いのでしょうか・・・？」

我ながら上出来である。よし！これで教室に入れる！

ガラッ！！

「すみません遅れ「早く座れ！このウジ虫野郎！！・・・えっ！！」

んだとこらー!!」

ってしまったくー!!?つい反射的にいつもの通りの口調にー!!?..
..つて、

「いねえ!?!」

『は?』

ダーリン(仮)がいない!?!な、なんで!?!どうして!?!

「えーと、ちよつと通してもらえますか?」

オレが呆然としてるうちに担任がきた。そこには寝癖のついた髪にヨレヨレのシャツを貧相な体に着た、いかにも冴えない風体のオジサンがいた。しかし、ダーリン(仮)は来ない。

「それと席についてもらえますか?HRを始めますので」

「う、うーっす」

「...」

終わった...。ダーリン(仮)がこなけりや意味が「すみません!!遅れました!!」...?この声は!

「明久お前何してたんだ?」

「あつ雄二。いや、ちよつとAクラスを見てたら...」

ま、間違いない!!ダーリン(仮)だ!な、名前を聞かなければ

!!

「...あつてそれを「あ、あの!!」?」

「な、名前を教えてくださいませんか!!」

「えっ?」

「お願いします!!」

「別にいいけど...君は誰?」

し、しまった!?!まだ名乗ってない!!

「す、すみません!!私、久美沢美紅と申します!!」

「僕は吉井明久。よろしくね久美沢さん」

「こちらこそよろしく願います!!」

や、やっとな聞けた...それにしてもさっきからなにか忘れてるような?...ま、いいか。

「・・・HRを始めたんですけど
そんな声が聞こえた気がするけど気にしない。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0867z/>

私（オレ）と本性と裏表

2011年12月10日11時47分発行